

第4節 健やかで心豊かに暮らせるまち

3 生涯学習

～学ぶ意欲を持つ市民が学習することのできる機会や場が得られているまち

<基本計画の目標>

地域における人と人との出会い、ふれあい、学び合いを推進し、地域団体や市民団体の活動を支援する中で、市民同士のつながりと支え合いを高めるための機会を設けるとともに連帯感やコミュニティー意識の醸成を図ります。

学習機会の提供にあたっては、個人の需要と社会の要請のバランスを保つとともに、生きがい・教養・人とのつながりなどの追求と職業的知識・技術の習得の調和を考慮します。

市民が主体的に学習活動を展開できる場の確保と利用しやすく質の高い魅力的な施設づくりを進め、いつでも、どこでも、だれもが気軽に学習できる学習環境を整備・充実します。

多様で幅広い学習情報の収集・提供や学習相談体制の整備、学習コーディネーターなどの人材育成を行い、若者を含めあらゆる層の市民の生涯学習を総合的に支援していきます。

学習した成果が就業や社会参加など、さまざまな場面で発揮できるよう民間教育事業者や関係機関と連携を図りながら、職業能力の向上につながる学習機会の提供に努めます。

あらゆる場面において市民参画ができる機会・場の拡充と市民、行政、民間教育事業者や関係機関が一体となった効率的・効果的な推進体制を整備します。

<目標指標:市民意識調査による市民の満足度>

市民満足度	当初値	H18 実績	H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 目標値	H22 実績	H23 実績	H27 目標値
「鎌倉市は、学ぶ意欲を持つ市民が学習することのできる機会や場が得られているまち」だと感じている市民の割合	54.8%	47.7%	49.7%	53.6%	54.6%	55.0%	53.4%	55.6%	56.0%

<6年間の取組の評価>

【教育部】

市民の学習ニーズはますます増大し、高度化・多様化する中で、市民ボランティア団体である鎌倉市生涯学習推進委員会に講座・イベント等の事業を委託し実施することで市民のニーズを踏まえた事業を展開することができました。また、地域における絆が希薄化する中で、各地域の学習センターが地域の核となり、講座・イベントを企画・実施するとともに、地域で生涯学習活動を行っている市民の活動発表の場としてフェスティバルを市民と協働で開催し地域の連携を深めることができました。これらの取組により、市民満足度は増加傾向にあります。

図書館に関しては、システム改修や市民協働による図書館振興事業、電子図書館実証実験などを行い、サービスの向上をめざしてきました。未利用者の登録への働きかけなど反省点を明確にし、それらの結果を踏まえ、サービスの在り方について検討していく必要があります。

【文化財部】

学習環境の整備・充実に向け、鎌倉国宝館の博物館としての活動・機能・資料の充実やすぐれた教材を提供するとともに、貴重な文化財の保存に努めてきました。

今後とも、優れた生涯学習の場を提供するとともに、文化財の適正な保存環境を維持するうえで、大規模修繕施工後20年を経過した施設の老朽化への対応や、東日本大震災規模の地震をも想定した、耐震対策が求められています。

＜今後の方向性＞

【教育部】

心の豊かさを求める市民が増加するとともに、急激な社会の変革や現代的な課題に対応するため、生涯学習が果たすべき役割は、今後ますます増大していくと考えられます。一方で市の厳しい財政状況等により、市がすべての生涯学習の機会や場の提供を主体的に行っていくことは困難な状況です。今後は、市民団体や関係機関、民間事業者などと連携し、生涯学習の機会や場の提供を行っていきます。

図書館開館後百年を経過する中で、貴重な資料を収集してきており、この資料を公開するなど、図書館の持つ情報発信力を積極的に活用できるよう環境整備を進めるとともに、現在、策定中の第2次図書館サービス計画の中で多様化する市民ニーズに応える図書館をめざしていきます。

【文化財部】

「めざすべきまちの姿」の実現、すなわち学ぶ意欲を持つ市民に対してより豊かな学習の場を提供するため、施設整備、収蔵品の充実を進めます。また、鎌倉国宝館は文化財の保存という重大な使命を担っている施設であるため、収蔵品の保存にあたり、適正な環境を維持するための管理運営に努めることが必要です。

鎌倉市民評価委員会の評価

《この分野の6年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見》

・計画策定時と同様に少子高齢化が進んでいる。その中で、学ぶ意欲を持つ市民の個々の学習ニーズに応える学習内容が提供されている点が優れており、評価できる。多様化しつつある市民のニーズに応えるべく、数々の努力がなされており、特に生涯学習推進委員会の活躍の成果を評価する。市民活動団体との協働による企画運営や、様々な立場からニーズを調査し、ニーズに合わせて「お話講座」や「ボランティア要請講座」等ユニークなサービスを行っており、積極的に事業が実施されている。

・生涯学習センターとしては鎌倉市民の学習の多くの機会を提供してきた点では十分評価でき、利用者数は伸び、センターが市民の学習の場として定着してきた。図書館の利用率やその利用方法への努力も図書館の年間貸し出し数の増加が証明している。ハードとソフトが一体となった取組がなされている点は評価できるが、ハード(生涯学習センター、図書館、鎌倉国宝館)ありきの内容となっているのは改善の余地がある。

・「鎌倉市生涯学習推進委員会」に生涯学習推進事業を委託した。

・市民満足度も目標値を達成している。

評価の内訳(委員数)						⇒	評価委員会の評価
◎	4	○	4	△	0		◎

《将来のまちづくりの展望に向けたこの分野に関する意見》

- ・市民の学習ニーズは今後、多様化する可能性もある。多様化に備えての市役所でできることと、市民団体等との協働も含めて市の財源を有効に活用する工夫も必要である。
- ・生涯学習センターは予約ができにくいほど利用され、今後も必要性が伸びていく。地域コミュニティの核として学習、触れ合いの場と機会を拡充して頂きたい。幼児から高齢者まで、生涯を通じて、教育と学習の機関・場としたい。
- ・図書館や文学館、国宝館については、「武家の古都・鎌倉」を紹介していく上でも非常に重要な役割を担っていくものと思われる。外部からの来訪者向けのサービスも重要だが、市民に向けたサービスとのバランスを計りながら実施していただきたい。
- ・お金をかけた箱ものが入場者が減っており何らかの対策が求められる。
- ・現在与えられている学習機会を上質なものに努力を継続したい。
- ・民間企業との連携は、現状は行われていない。今後、この点を進めることについて、具体的にどのようなことがありみえてこない。
- ・生涯学習は「年齢に関わらず学ぶ機会を提供する」ことが目標というイメージだが、「施策の方針」は、つながりや支え合いを高めることを重視した内容となっており違和感がある。
- ・自己実現、余暇、趣味に加えて、「学ぶ」に今求められているのは成人の再教育ではないか。
- ・改正教育基本法 第3条(生涯学習の理念)に基づいて、事業を推進することを期待する。
- ・財政面から難しいと思うが、施設設備の経年劣化の進行を防ぎ、補修して欲しい。
- ・改訂された生涯学習プランが効果的に実践されることを望む。若い世代の参加のしやすさ等、新規開拓に期待する。
- ・市民ボランティア団体である鎌倉市生涯学習推進委員会への事業の委託はよいが、質・内容も定期的にチェック(まかせきりにしない)する必要がある。

《この分野に関する総括意見》

- ・この分野に対する市民の期待や要望も高く、更に直接市民にサービスを行う事業が多いことから、各取組に関する評価や効果が見え易く、各年の満足度にもその結果が現れている。新しい取組を検討する際には、過去の実績も十分考慮していただきたい。
- ・多様化も鑑み、市民が自立した学習経験が推進できるような仕組みもつくっていくと良いのではないだろうか。
- ・地域コミュニティの核として、支所との複合施設は意味があり、市民の触れ合いの場としてさらに充実させてほしい。
- ・学校教育、青少年育成等の分野と密接に連携し、「生涯学習」から「生涯教育」というような施策分野の形成を計ってみたい。また、「年齢に関わらず学ぶ機会を提供する」なら「ひとづくり」という分野、「つながりや支え合いを高めることを重視」なら「絆づくり」というような分野の一部に位置づけてはどうか。